

天文學興隆の新機運と二つの提唱

近來、我が國勢の進展と共に、天文學界にも新しい機運が起りつゝあるのは喜ばしいことである。

昨年以來、生駒山上が天文臺建設地として囑目され、花山天文臺と大軌電鐵會社と何れからも之が調査研究に歩を進め、去十一月中旬には、兩者の合意により、試みに獅子座流星の觀測が三夜にわたつて遂行せられた結果、地勢や、大氣の状態など益々有望視されるに至つたので、京大側も大軌側も、今年初以來、いよいよ本格的に之れが具體化への段取りを進めることゝなつた、此の事は、イチ早く去る一月18日の大阪朝日新聞紙上に花々しく發表されて、世人を驚かしたが、四月26日には愈々大軌會社の重役會議に於いて天文臺の建設と京都帝大への寄附とが決議された。其の後も専門的の計畫は着々進捗してゐる。何れ之れは近いうちに正式な天文臺新設の形式として決定公表されることゝ思ふが、今までに大略申し合はされたところでは、之れは太陽の研究を主とし、殊に其の宇宙的、人生的意義の求明に全力をそゝぐと共に、之れの直接關係事項として近畿平野のための高層氣象觀測が加へられることゝし、尙ほ一方に於いて、良好なる大氣を利用して、天體（殊に太陽系の諸遊星）の寫眞研究が企圖せられ、更に又此の山上への交通の利便があるのを利用して、社會大衆の間に天文氣象に關する基礎知識の普及を徹底するための部門が加へられるらしい計畫である。従つて、此等の計畫が具體化するに至る場合には、最も實用的な天文氣象の研究と、天文による理學思想普及と、二方面に於いて、實に劃期的のものとなるだろうと豫期せられる。

第二は、大阪に於けるプラネタリウム建設の計畫である。そもそも之れは先年來、大阪市電氣局が計畫し、目下、市内四つ橋に建設中の「電氣科學館」の設備並びに内容に關する諸方面の權威者の座談會が去る四月二日に大阪新ホテルに於いて開催された時、列席の山本一清博士から提言されたものである。一體1926年以來、歐米各國に漸次増設され、今や學術普及上に重要なインスチテュションと認められつゝあるプラネタリウムについては、我が山本博士が日本に於いて最初に其の價值と效果とを推賞紹介され、例へば

「天界」には第74號(昭和2年5月號)に可なり詳細な解説が掲げられたばかりでなく、同第124號及同141號には其の最近數が記され、又、第150號以下には博士が第二回渡米のみぎり、實地にシカゴのプラネタリウムを見學された時の記事などがあり、尙ほ「科學知識」の昭和六年八月號にも同博士の趣味ある解説文が掲げられてあるなど、山本博士が此の新時代に相應しい學術普及機關の我が邦國に新設される熱望を有せられる事は、可なり以前からであるので、上記の座談會の席上で、博士はかねて用意された材料と熱辯とにより來會者諸氏に訴へられたところ、果して此の聲は滿場の注意と興味とを喚起し、軍部や社會教育家、爲政家、學者、精神指導家、實業家、市理事者、新聞人等、あらゆる人々の絶賛を博し、期せずして即座に「プラネタリウム建設期成會」の形となり、早速其の實行委員が若干名擧げられる勢ひとなつた。大阪市の官民間には、其れ以來、熱心に此の問題が研究せられ、海外に於けるプラネタリウムの經營に關する資料等も集められ、建設に關する諸方面の調査も急速に進展しつつある狀況である。最近には更に又去る四月17日午後、大阪市電氣局主催の市會議員招待會に山本博士も特に招かれ、約一時間にわたり、幻燈を使用しつつ、プラネタリウムの構造と其の效用等を詳細に講演された。此の席には、わざわざ加々美市長も見え、主客合計百二十名、皆學識と榮譽ある有力者であつて、博士の提唱には滿場大拍手で賛意を表した次第であつた。超えて、去る五月17日には此の案が市電氣局から市會議場に提出せられ、局長より提案の説明があつた後、特別委員の調査附託となつた。此の委員會には山本博士も出席されて、充分な解説を試みられる筈である。此の勢ひであるから、之れも近いうちに建設案決定の快報に接する日が来るものと期待される。

其の他、未だ此所に發表する時期に至らない新計畫も二つ三つある由であるから、今1935-6年は、かねてから警戒されてゐた「邦家の危期」であるといふやうな心配氣分は吹き飛ばされて、むしろ天文界のためには實に喜ばしいニュースに滿ちた新時機となるだろうと思はれる。

従つて、此の際、特に若き有望の新天文研究者の多く輩出せられ、此の機運に乗ぜられんことを祈る次第である。(編輯)